

南池袋二丁目B地区

ワークショップだより No.3

平成23年
8月

発行：豊島区都市整備部都市再生プロジェクト担当課 03-3981-3449(直通)

平成23年6月22日 第5回まちづくりワークショップ開催！
東日本大震災を受けて、今後の安全・安心なまちづくりについて話し合いました。

場所：南池袋小学校多目的ルーム
時間：午後7時から午後8時45分
参加者数：14名

1. 南池袋二丁目地区まちづくり動向について
2. B地区のこれまでの経緯について
3. ワークショップ・懇談

今年度も引き続き井戸端会議的なワークショップ方式でまちづくりを議論していきます。皆さんと情報共有を図りながら丁寧に進めていきます。

東日本大震災の影響により、前回のまちづくりワークショップから半年がたっていることもあり、今回のワークショップでは前半に南池袋二丁目地区全体のまちづくり動向やB地区のこれまでの経緯をご説明し、後半は、東日本大震災を受けての感想、まちづくりへの考え方などを中心に話し合いました。

1. 南池袋二丁目地区まちづくり動向について

- A地区：現在権利変換計画の認可がされ、解体工事が始まっています。
- C地区：昨年度行ってきたワークショップの結果をふまえて作成した「まちづくり全体構想素案」（複数）を、今年3月6日に行った全体説明会で区から提案しました。今年度は、全体構想素案に対するC地区の皆さんの意向を丁寧に伺っていく予定です。

2. B地区のこれまでの経緯について

第1～3回（平成22年8月開催）のワークショップでご意見の多かったまちづくりのテーマについて四つ（*）にまとめ、前回（平成22年12月15日開催）のワークショップではその中の「災害に強く安全なまち」、「緑が多く環境のよいまち」についてワークショップ形式で議論しました。

*（参考）第1～3回のワークショップでご意見の多かったまちづくりの四つのテーマ

- ① 災害に強く安全なまち
- ② 緑が多く環境のよいまち
- ② お年寄りや障害者にもやさしいまち
- ④ 世代間交流のあるまち

-質疑応答-

Q：C地区の全体構想素案とありましたが、地元これから提出するのですか？

A：地元から議論のたたき台がほしいということで今年3月6日に区から提示したものです。その後3月11日に東日本大震災があり、安全なまちづくりを早期に実現したいというご要望が強くなりました。C-1地区では約8割が協議会に加入しており都市計画協議の申し入れが来ています。C-3地区についても6月に8割の加入者による協議会設立の届け出がありました。（豊島区）

Q：C地区全体構想素案に高層建物と低層のような建物がありますが、詳細はどうなっているのですか？

A：地域の方の中にはどうしても超高層が嫌だという方もおられるため、中低層棟も配置し、なるべく超高層建物は1つにしたらどうかという意見も出ています。（豊島区）

3. ワークショップ・懇談

(1) 災害に強く安全なまち（東日本大震災を振り返って）

3月11日の震災の震災を受けて、今後の安全なまちづくりをどう考えるか議論しました。

<大震災当日の状況について>

(参加者) 今回の地震は揺れが長いように感じました。外に出て家の前の空き地に避難したら地面がズレたように感じました。池袋はかつて池だったところなので、地盤が弱いと思います。

(区) 池袋は武蔵野台地という比較的固い地盤で安定しています。液状化の危険もありません。川沿いや元々「池」「川」だったところは弱いと思いますが、大きな建物は強固な地盤に杭で固定するので問題ありません。

<豊島区のまちづくりの方向性について>

(参加者) 区は超高層の新庁舎を建てるつもりなのですか。

(区) A地区再開発は権利変換も終わり、法的に進んでいる状態です。建築工事も進んでいます。方針変更はありません。

<今後、B地区のまちづくりについて>

(参加者) 高層ビルは倒れないというのが直下型地震の場合は分かりません。住むには高齢者は3,4階でもエレベーターが止まったら昇り降りができないので高層は建てなくてよいと思います。

(参加者) 最近の基準に合致している構造物は壊れていないが、高い建物は中の人間までは守れません。建物は大丈夫でもライフラインは使えなくなるので高層は反対です。



ワークショップの様子

(2)「お年寄りや障害者にもやさしいまち」・「世代間交流のあるまち」の事例を紹介しました。今回は、このテーマについて議論する予定でしたが、東日本大震災を受けての感想やまちづくりへの思いや考え方についての議論が中心となりました。

グループ A で出された意見

<地区の現状などについて>

(参加者) 自分はこの街に生まれ育ったが、近所のつきあいはどんどん無くなっています。

(参加者) 学校が無くなって子供たちの遊び場がなくなりました。

(コンサルタント) C 地区の全体構想素案は高層化により大きな広場を設ける案です。

(参加者) A 地区に医療モールが出来るのですか？

(コンサルタント) 誘致を検討していると聞いています。

(参加者) そうであれば、(A 地区)の病院などは高齢者のコミュニティの場になると思います。

<まちづくりの方向性について>

(参加者) この街が耐震性に問題があるというなら、開発で使うお金より、1戸ずつ耐震補強をした方がコストがかからないのではないですか？

(コンサルタント) 再建築が出来ない建物や借地の方も多く、共同化での街づくりを希望している方も多くいらっしゃいます。

(参加者) 高層の建物から階段で避難したことがありますが、途中で階段に人が滞留してしまいました。本当の火災時には階段での避難は困難ではないかと思います。



ワークショップの様子

グループ B で出された意見

<安全な建物やまちとは>

(参加者) 高層ビルが今の街並みと比べてどのくらい安全なのか、検証する必要があります。今のままでは火災が起きたらこの街は火の海になるでしょう。大震災を経験したが火災の熱で家の中のものがボロボロになってしまいました。

(参加者) 立地条件からは効率を考えるべきかもしれませんが、大震災をうけて、「効率より安全」を優先するべきと思います。

<将来を見据えてどのような選択をするか>

(参加者) 今は駅は近いし住みやすく、静かで緑があるので、今が一番贅沢な生活をしていると思います。ただ周辺環境がかわり世代交代もするので、この環境がいつまで続くものなのかとも思います。50年～70年先の将来を見据えて考えるとともに、次の世代のことも考えるべきです。

(参加者) 30年近くたって家のあちこちが壊れ始めています。先が見えないと、建て直すか修理した方がいいのか判断しかねます。

平成 23 年度 B 地区 ワークショップ 今後の流れ

第5回

★今回 6月22日『災害に強い安全なまちについて』

東日本大震災を受けての感想やまちづくりへの思いや考え方などを議論しました。

第6回

8月31日(水)『大震災とまちづくり、安全なまちとは』

第5回で出されたご意見をもとに、安全なまち・安全な建物・安全な暮らしについて議論します。

第7回

11月頃(予定)『私たちのまちの将来をイメージしてみよう』

ワークショップの結果をもとに、ご意見の多かったテーマについて、まちづくりイメージを議論します。

第8回

2月頃(予定)『皆さんのイメージするまちへの実現に向けて』

これまで議論してきたまちの課題、魅力、理想的な将来のまちイメージを受けてどのようにまちづくりを進めていけばよいか検討していきます。

※ワークショップの進捗状況により内容を変更することがあります。

平成 23 年 7 月 11 日から都市整備部
都市再生プロジェクト担当課は民間ビル
に移転しました。

3月11日の地震により区役所分庁舎A館は壁に大きな亀裂が入るなど損傷がありました。分庁舎は、老朽化しており耐震補強もしていませんので、来庁される区民の皆さんの安全確保を図り、業務を継続して行うため、新庁舎完成までの間、事務室の一部を民間ビルに移転しました。

皆さまのご理解、ご協力をお願いいたします。



次回 B 地区 第6回ワークショップ

【日 時】平成 23 年 8 月 31 日 (水)
午後 7 時～8 時 30 分

【場 所】南池袋小学校 2 階 多目的ルーム

お問い合わせ

豊島区都市整備部
都市再生プロジェクト担当課
小黒・柿澤・上野

TEL:03-3981-3449

FAX:03-5950-0803

E-mail: A0029233@city.toshima.lg.jp